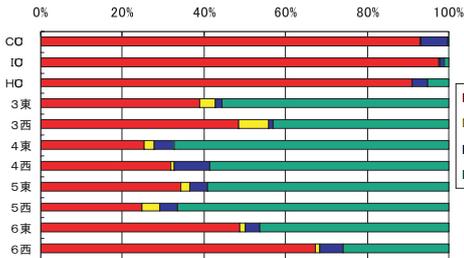
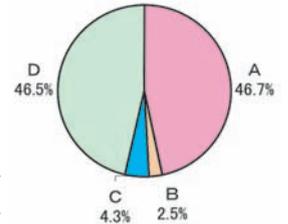




重症度・看護必要度の調査結果

医療法人近森会看護部長 梶原 和歌



者がタイプA以下B、C、Dと重症度や看護の手間の必要性が軽くなるもので、重症度の最も高いタイプAが他病院平均(39.1%)、当院(46.7%)を占めていました。病棟別重症度割合を見ると、一般病棟でもタイプAの患者がほぼ毎日入院していることがわかり、他病院でも同様の傾向がありました。

ICU・CCU

病棟は国の定

めた看護師配置基準と看護必要度との関係ではほぼ充足されていましたが一般病棟では平均して7.9名(当院7.3名)の不足、とりわけどの病院も20時、深夜2時の夜間勤務時の人員不足が顕著との結果がでました。当院は5年前に比し65歳以上の入院比率が63.8%から73.7%と高齢化が進み、平均入院日数は16.9日から15.3日と短縮され3カ月以上の入院患者比率も7.7%から6.2%と減少しており多忙な状況が示されています。職員(医師を除く職員)の平均年齢は30歳、実経験年数7.4年、その部署での経験2.8年でPT・OT・その他職員のチーム医療全体で医療の安全と質の高さ、効率を保っているという結果でした。

看護の手間がかかると判断する理由としてはCCU・ICUでは「呼吸状態全身状態の不安定な患者」「抜管後の呼吸ケアの対応や不隠によるライン管理」HCUでは「急変・状態不安定・頻回の呼吸ケア・吸引」などでした。一般病棟でも努力呼吸にて頻回の観察、ナース2名による全身清拭便処置、徘徊・興奮・不潔行為・意志疎通欠陥・点滴自己抜去など臨床的看護必要度高い患者の存在でした。

近森病院は今年「重症度・看護必要度」調査を全病棟で実施する二つの調査に協力する機会を得ました。共に厚労省による委託事業で、一つは国立保健医療科学院筒井孝子氏らの研究班によるもので42日間、もう一つは産業医科大学松田晋哉氏らの診断群分類(DPC)活用による医療サービスのコスト推計調査で、「看護必要度・APACHEII調査」を1日のみ施行しました。結果の一部をご紹介します。

「患者の重症度・看護必要度」に係る評価ではICU、CCU(重症集中病棟)とHCU(ハイケアユニット)該当患

● 12月の歳時記 ●

ポインセチア



文・外来統括看護師長
久保田 聡美
画・企画情報室
公文 幸子

12月に入り、街中がクリスマスモードとなる頃、ライトアップされたツリーの傍らでポインセチアの赤がひととき目を引きまします。日照時間が短くなると葉(正確にはホウ)が赤く色づいてくるので栽培家は育成室を黒いカーテンで覆って日照が短くなったとポインセチアに誤解させ、早く赤化させて出荷するそうです。この花をみると、クリスマスの思い出がよみがえる人も多いのではないのでしょうか? 花言葉は、貴方を祝福します。

日本の医療を良くしようとする志を持った病院の集まりであるVHJ研究会の職員研修で、長野県松本市の相澤病院を訪ねた。

総合研修の後、夕方病院を見学、病院の屋上にはヘリポートがあって、そこから、かつて若い頃に登った穂高や常念岳、槍ヶ岳の北アルプスや南の乗鞍岳も、夕闇迫る紺碧の空にシルエットになって眺望できた。

そんな風景に浸りながら、温暖な高知とはまったく違った冬の寒さの凍てついた風土を思った。長野県は教育県で全国一医療費が安いのも、こうした風土のなかでは家族みんなで支え合いながら、真面目にコツコツ働かなければ、生きていけない土地柄からだろうと思った。

反面高知では、冬、お酒を飲んで

公園のベンチで朝まで寝転がっていても、死なないし、温暖な風土のなかで、何となく楽しく生活している。

医療界はいま、医療費の逼迫のために、急性期医療においても出来高払いから包括払いへと移行している。

県別医療費の包括払い?

近森 正幸



さらに将来は県ごとの医療費によって、診療報酬が決まろうとしている。そうなれば、病院の数や病床数も全国一という高知県の医療は存亡の危機に見舞われるのではないかと。

入院患者を施設や自宅に帰したり、タバコを止め、お酒を控え、バランスのとれた食事と運動で、肥満を防ぐなど生活習慣病の予防にこれまで以上に県民みんなが真摯に取り組まなければならない。そんな時代がすぐそこに来ているように思う。

(理事長・ちかもり まさゆき)

医療制度改革と診療報酬

医療法人近森会管理部長 川添 昇



近森病院 (338 床) の 5 年間の動向

	2001 年	2005 年	増 減	
平均在院日数	16.9 日	15.3 日	-1.6 日	
65 歳以上の入院比率	63%	73.7%	+10.7%	
医療従事者数	医師	53 名	69 名	+16 名
	看護師等	356 名	408 名	+52 名
	リハビリスタッフ	33 名	50 名	+17 名
	その他	150 名	160 名	+10 名
	合計	592 名	687 名	+95 名

来年度の診療報酬改定についての情報が、さまざまな方面から流れている。マスコミ等も、医療費についてこれほど報道していることは、かつてなかったほどである。「少子高齢化」「医療費の増大」「保険料や税金の国民負担の限界」等々、危機感をあおるフレーズのオンパレードである。だが、見方を変えてみると、日本は世界有数の長寿国であり、総医療費の対 GDP（国内総生産）比は世界で 17 番目の低さである。世界有数の効率的な？ 医療提供国ともいえるかもしれない。

とはいえ、これまでのような医療提供体制では、団塊の世代の高齢化とともに、老人医療費が爆発的に増大するのは避けられないことも事実である。

10 月 14 日に厚生労働省から出された医療制度改革試案の中で医療費を適正化する中長期対策として、生活習慣病の予防の徹底や、平均在院日数の短縮、在宅医療の促進、病床転換等を行なう予定であるが、短期的対策としては、高齢者の患者負担の増加や、療養病床に入院している患者の食費、居住費の自己負担化などが挙げられている。診療報酬による適正化は来年 4 月に大幅な削減をする改定が予定されている。

公務員の給与が減額されている現在、保険料や税金で賄われている医療費も例外ではあり得ないといわれているが、表に示しているように近森病院のような急性期病院は、高齢患者さんの増加が目立っており、急性期病院としての質や医療安全を保つ上でも、スタッフの努力もさることながら実質的な人員増や、コストの投入もはかかっていかなければならない。

全体としての改定減はやむを得ない

としても、メリハリの効いた改定をしていただかなければ、急性期病院は大変なことになる。これはリハビリテーション病院や精神科の第二分院も同様である。これからの高齢化に向けて先駆的な医療を展開している近森会にとって、質を保ち向上させるには、これからも適正な利益を確保し、

コストを投入していかなければならない。

一方、公立病院に対する繰入金と称する税金の補填は、全国で年間 1 兆円を超えるといわれており、これは医療費に他ならない。医療費を削減する前にそこにまず手を入れるべきではないだろうか。そして、民間病院と同じ条件で経営努力し、競争することによって、医療の質は向上し、医療の効率性の提供が行なわれていくと思われる。

かわぞえ のぼる

精神科第 2 回地域医療講演会

「これからの精神科におけるチーム医療」

第二分院作業療法室長 山内 学



松井紀和先生



さる 11 月 5 日、四電ホールにおいて日本心理研究所所長の松井紀和先生をお迎えして地域医療講演会を行ないました。

最近、チーム医療の重要性が取り沙汰されてはおりますが、現場において、とくに患者さんの病状が治療者に投影されやすい精神科においては、チーム医療というテーマは大きな課題であると思われます。近森会においても、チームとしてのシステムを導入し治療にあたっておりますが、対応する疾患が多様化する現在、もういちどチームというものを見直す機会になりました。

今回の講演には、院内外から 101 名の参加がありました。「精神科における」という演題でありながら多くの方にご出席いただけたのは、やはり

「チーム医療」の重要性とともに、その実施現場における難しさがあるためではないでしょうか。

そのことに応えるべく講演では、人間の形成する集団の特徴と集団心性に始まり、日本人特有の思考や感性についての考察や、対人関係における行動パターン

など、人間の普遍的特徴を押さえた上で、その人間が作り出すチームという概念についての話へと発展していきました。次に、具体例を挙げながら、医療チームにおける特徴的な問題点などの話となり、中でも「ラインとスタッフ」という概念や、「リーダーシップについて」そして「職業アイデンティティ」に至るまで多くの内容について語られていた。

今回の講演では、平易な言葉で日常よくある例を挙げて説明して下さったためか、とても理解しやすい内容であったとの評判でした。今後、この講演を実際の臨床に活かしてよりよいサービスの提供に繋げていきたいものです。

やまうち まなぶ

口のリハビリテーションの取り組み

近森リハビリテーション病院 4 西病棟看護師
小松由美子



当院の口のリハビリテーション委員会は医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、栄養士の 21 名で構成され、月一回の定例会を開き、活動内容の報告や意見交換などを行なっています。

近森リハビリテーション病院では看護師が日常行なっている様々な嚥下訓練を摂食機能療法として算定しており、現在は各ユニットでの統一化をはかるために、摂食機能療法の算定基準や中止基準を見直している段階です。

摂食機能療法を開始する事で、摂食・嚥下障害を身近なものに感じ、知識や意識向上につながってきていると思われれます。また、食事のたびに栄養チューブを挿入する間歇的経管栄養法を導入して約 8 年が経過しました。

チューブの留置は衛生的にも問題があり、肺炎の罹患率が高くなります。患者様自身も、外観を気にされ、鼻や喉に不快感を持ち、顔を動かすことも辛くなってくるようで、表情も乏しくなります。

私も以前体験をしましたが、想像以上の苦痛を感じました。実際、間歇的経管栄養法の導入に対しては、手技的な面で負担を感じられる方も多いと思いますが、慣れてくる事でメリットを多く感じられると思います。

口腔を見る習慣が付き、口腔から咽頭周囲の清潔を保つことで、肺炎予防

につながり、毎回チューブを挿入することで直接的な嚥下訓練にもつながります。

口のリハビリテーションについては

スタッフ全体に理解を持っていただくために啓発活動に力を入れて行きたいと思っています。

こまつ ゆみこ

ドクター・アイ

手助けできる喜び

近森病院整形外科 黒木啓之



4 年前、大学の救急医学教室に入局した。入局後、毎月、当直は月に 25 日前後こなしていたので睡眠不足と疲労で大変だった。救命救急センターという特徴から三次対応の患者さんの診療にあたる。集中治療室では次から次へと覚えることがたくさんある。また、患者さんの入れ替わりがとても速い。

救命救急センターなので死亡退院する患者さんの数は並大抵でない。そのうち、生死に対して少し鈍感になっていた。そんな時、整形外傷の患者さんの診療にあたる機会があった。少し自分にも診療に対して余裕が出てきた時期だったのでじっくり診療にあたることができた。その患者さんは重症な骨折が何箇所もあったので、術後、日常生活に復帰できるのだろうかという漠然とした不安があった。しかし、数ヵ月後、元氣

に歩いて挨拶をしにきてくれた時、患者さんを生死の淵から生きることへ手助けできたという喜びと、生きていることのすばらしさを感じた。

また、この頃から外傷学への興味が強くなった。特に、整形外科に対する興味がとても強くなり、サブスペシャリティは整形外科にしようと思った。私は、外傷診療において、初期診療、全身管理または集中治療、根本治療という三つの phase があり、これらの phase に整合性を持たせ、治療を行なうことで、患者さんが生きて元気に退院することにつながると思っている。

当院整形外科では根本治療の能力を高め、外傷診療での各 phase の整合性を持たせることで患者さんの手助けができればと考えている。こんな思いで診療にあたる今日である。

くろき たかし

以前、高知新聞に小学校の運動会が様変わりしたとの記事を見かけ、子供の小学校の運動会に行ったときにその通りだという思いがしたことを思い出した。

さびしい事にラジオ体操をしないのである。私達の世代の日本人は日本中どこ出身であってもあのイントロを聞くと自然に両手を挙げてしまうほどに身に付いているのだが、我が家の子供たちはラジオ体操を知らない世代となっている。

個性の時代と言われそれぞれの小学校が特徴を持とうとしているのは良いことかもしれないが、日本人と

聴診器

日本人考

リハビリテーション科科长
中山衣代



して共有できる感覚がなくなるようでなんともさびしいものを感じる。

そういえば、卒業式でも君が代が歌われなくなって久しく卒業式の歌といっても思い出は様々であり、それはそれで話題も弾むのだが、同じ曲を聴くと同じような場面が思い出せるという感覚は大事なのではないかと思う。個性を追求しながらも日本人としての連帯感を維持するにはどうすればいいのだろうか。

そういえば、夏休みの宿題の自由研究に悩んだ人も多いでしょうが、いま自由研究は必須では無いようです。

第23回管理部長塾

「DPC 導入に備えて」

企画情報室 宗石 勘九郎



第23回管理部長塾は、大阪の東住吉森本病院より、診療情報管理士の丸濱勉さんにお越しいただき、「DPC 導入に備えて」という題でご講演をいただきました。

講演の中で、DPCの基本的な概要や仕組みについての説明の後、DPC 試行病院として、DPCを利用して請求業務をしていく上での運用について、更にもその際の注意事項や重要な点について詳しい例をあげて説明していただきました。

この中で、色々な請求方法のパターンやその中で注意しなければならない重要な点として、出来高での請求と違い診療の内容と金額が釣り合わないケースや、入院途中で診断部分類が変わることによる金額の変更などのケースで苦情があがってくる事などをあげて、今まで以上のインフォームドコンセントが必要であること、医師、診療情報管理士、医事課の連携が大切になってくる事をお話いただきました。

また、DPCのデータを活用するこ

とで、病院の状況について色々な分析ができることについて説明いただき、DPCが病院にとって重要なマーケティングツールになるということをお話されました。

システムは当院と同じメーカーを採用されていることもあり、運用などのお話は非常にわかりやすく、今後システムを構築していく一員としてこの内容を参考にしつつ、当院にとって最適なシステムを構築していきたいと思えます。 むねいし かんくろう

2005年秋 職員旅行

今回の職員旅行は10月11日出発のベトナムを皮切りに2006年1月の北海道スキーまで12カ所17班に分かれての旅行となった。



左下の写真は11月20日出発の上高地、奥飛騨、白川郷巡りの旅。左は22日の上高地にて記念撮影。下は白川郷



下は東京ディズニーリゾートへの2泊3日



下の写真2枚は10月24日と11月8日出発の2班に分れて行ったハワイ旅行。ハワイの日差しを受けてみんなはちきれそうな笑顔



シリーズ●わたしの趣味

今回は CHIKAMORI SCUBA DIVING の皆さん。美しい海の中の写真を寄せてもらいました。

お揃いのTシャツをつくりました▶



沖縄あかまつかさ



海底で全員集合



ハワイ



石垣マンタ

第30回地域医療講演会

ICDの精度管理と
DPCデータの分析活用診療支援部長
寺田 文彦

急性期病院の新しい診療報酬体系であります、DPC (Diagnosis Procedure Combination: 疾病別1日包括支払い制度)に、昨年より民間病院として参加されている日鋼記念病院の、診療情報管理課の佐藤正子先生をお招きして、講演会が開催されました。

DPCの本来の目的である医療の質評価の指標として重要となってくるのが傷病名選択 (ICDコーディング) であり、病型や性状、部位などにより疾病別分類が異なるため、正確なICDコードの付与には詳細な病名選択が必須となり現場へのフィードバック (還元) が大切と話されました。実際の試行では副傷病や検査・処置によりバラツキがある症例を是正することができ院内症例の標準化を検討し、DPC14桁番号で治療実績や経営分析を行ない他病院とのベンチマーク (比較) で実例をもとに示されました。

当院でも医師・医事課・診療情報管理室の従来の業務内容やシステム体制を見直し、臨床病名とは異なったコード体系であるため勉強会も継続して行なう必要があります。主傷病を短

期間できちんと治療し、急性期治療を終えた患者さんは亜急性期や回復期リハビリテーション病院、診療所、さらには長期の施設などへと地域連携を行なうシステムを今以上に確立し、急性期治療が必要な患者さんを恒常的に受け入れることができるかが問われます。

当院も昨年よりDPC調査協力病院として厚生労働省にデータ提出を行

なっており、来年の診療報酬改正ではDPC対象病院の拡大も期待されています。今後も上記データとコスト調査データを組み合わせ、急性期医療に必要な適正な診療報酬であるEBR (Evidence Based Reward= 根拠に基づく報酬) が評価されるよう現場のデータを提出していきたいと思えます。

てらだ ふみひこ

院外エッセイ

さあ！龍馬に会いに行こう

森 健志郎

もり けんしろう 1941年、中国・張家口生まれ 高知新聞記者を経て中国新疆ウイグル自治区ウルムチの新疆大学に語学留学、2005年8月から県立坂本龍馬記念館・館長



龍馬の「手紙」、目の前に広がる「太平洋」。坂本龍馬記念館の「売り」の代表である。手紙を読んで龍馬の心に触れ、海と空を割る、はるかなる水平線に龍馬の目線を実感する。ここは、美術館、博物館というより「思想館」とでも言ったほうが似合っているように思う。館内もシンと静かな時もあれば、奇声を発しながら、幼児が展示ケースの周りを駆けていることだってある。だからと言って別に咎めるでも、注意する声があるわけでもない。その状態を納得してしまう雰囲気のようなものが館内を支配している。全部まとめてそれでいい、が基本なのである。

もう一つ、「売り」を見つけた。ただし、これは私が館に来て発見したものだから、個人的に推薦する“売り”と言ったほうがいいのかも知れない。

それは地下2階展示室で、よく目撃される。特に、長い龍馬の手紙を陳列してあるケースの前である。人気のコーナーだ。若者が多い。彼らが実に熱心に手紙を読むのだ。一見暴走族かと思間違うようないでたちの彼らが、目を皿のようにして隅から隅まで読む、読む。その懸命の姿に感動する。“やるじゃないか” ぼんと背中をたたいてやりたくなる。

地下1階の図書コーナーに置いて

ある、「龍馬への手紙」は是非見てほしい。

入館者のみなさんが、書き残してくれたもので、それを名前を外し筆者が分からないようにして、年代順にファイルしてあるものである。もう24冊を数えている。小学生からお年寄りまで、男女を問わない。それぞれが龍馬への思いを綴っている。

「ついに来たぞ……」「7年振りです……」「22年前、ここに来たのは学生時代でした……」「17歳の夏休みだった……」こんな書き出しの手紙が多い。

「……この2年、さまよっていましたが、でも、ここに来て貴方に会って、海を見て、ふっきれました。またいつか来ます。「貴方」は桂浜に立つ龍馬像である。そして皆さん問いかける。「今の日本に必要なものは?」「現代の日本のこのざまを笑ってやってください」などと。龍馬に意見を求め、自ら進むべき道を探る。「人生の師」「生涯のライバル」「人生観が変わった」。熱い思いが伝わってくる。

「170年前に生まれていたら、きっと私がお龍だったでしょう……」と書いた若い女性もいる。皆、龍馬が好きなのが分る。そんなメッセージを読んでいると、涙がこぼれそうになる時がある。

お知らせ

近森病院

第13回クリニカルパス大会

経尿道的尿管碎石術 (TUL) のパス

今回は泌尿器科の「経尿道的尿管碎石術 (TUL) のパス」を中心に発表があります。

日時：2005年12月17日 (土)
9時～12時

場所：コンフォートホテル高知駅前
3階土佐の間
高知市北本町一丁目2-12

※お問い合わせは地域医療連携室まで

※できるだけ公共交通をご利用下さい。

日本静脈経腸栄養学会 秋期コ・メディカル教育セミナーに 参加して



近森病院 ICU 病棟 熊谷 美智子

名古屋万博が最終日に近づいて、最高の人出があった頃の9月23日から24日の2日間、名古屋国際会議場ではもうひとつの人出があった。今が旬の栄養サポートチーム専門療法士の受験資格条件となる教育セミナーである。今年から看護師も受験が可能となり参加することにした。

全国からの参加者は約600人までにふくれあがっていた。近森会に栄養サポートチーム(以下NSTと略す)が、発足し3年を迎えようとしている。今回の教育セミナーでは、当院の宮澤栄養科長も講師として講演をしてもらいとても分かりやすいと好評であった。

初日は経腸栄養、栄養剤の種類、栄養管理の必要性など基本的な事が9時間にわたりあった。2日目は医師からの講義が主となり各病院で実際に行なわれている、中心静脈栄養(高カロリー輸液)、静脈栄養などについて講師より細かい観察、管理法、在宅栄養療法の講演もあった。

身近で普段からおこなっている事でもあるためたいへん興味深く熱心に聞くことができた。その後チーム医療についての講演もあり、これからの日本

の医療についてのあり方など察する内容で身につまされるような気がした。今回の参加者は看護師、栄養士、理学療法士、検査技師、薬剤師などで話をする機会があり病院についてや活動についての悩みなどもすることができよかったと思う。これからの治療の基本

は栄養管理からと再認識され、「栄養管理は急性期から」と集中治療棟では重要視されている

今後は他職種との連携をスタッフと図り、情報提供を密にしカンファレンスの内容を充実させていければと思う。くまがい みちこ

ハッスル研修医・第5回

in Hawaii

先日、院内旅行でハワイに行かせていただきました。ホテルの目と鼻の先にワイキキビーチがあり、多くの観光客が日光浴やサーフィン等を楽しんでいました。僕はこの旅行はのんびり過ごそうと決めていたしたので、朝遅い朝食をとり、その後ワイキキビーチを散歩するというのが日課になっていました。

適当に日向ぼっこをしていると正午を回り、午後からはホテルのプールサイドで横になり、缶ビールを片手に読書をしつつ、たまにきらびやかなビキニ姿に目を細めていました。普段これだけのんびりと時間を過ごすことが無いからなのか、気がつくとな近森病院で働き始めてからのこの6カ月を振り



研修医
瀬良 誠

返っていました。

6カ月という短い期間にもかかわらず、楽しいこと、悲しいこと、つらいこと等、多くのことを経験させてもらいましたが、近くには常に仲間がおり、数多くの先生やスタッフの方々に見守っていただき、恵まれた環境に自分がいることを改めて感じました。

先生方をはじめ、多くのスタッフの方々への感謝の気持ちを胸に、11月より内科での研修が始まりましたので、よろしくお祈りします。

せら まこと

リレーエッセイ

人力車



医事課 本山 万記子

人の多さを掻き分け清水寺や祇園のほうにも足を伸ばしてみたんですが、やはり込み合っていました、そこでよく見かけたくさんの人が利用していたのが「人力車」でした。

昔は移動手段として使われていた

ようですが、今では観光案内や名所案内などしてくれるプランもあるようで、人目が少し気になりましたが、早速乗ってみることにしました。

するとこれがなかなか楽しいんです。人力車は乗り心地もよく、目線が高くなり、歩いているときはまた違った景色を楽しむことができました。それに俣夫さんが京都の穴場の名所やお寺のきれいに見えるスポットを解説つきで案内もしてくれます。

これからの時期、旅行を考えている方、紅葉の季節で景色も一番きれいな京都で人力車に乗ってみるのもお勧めです。

もとやま まきこ

旅行に行く時には、毎回目的やテーマを決めて、行く場所を決めるようにしているんですが、今回の旅行では友人の「まったり、ゆったりしたい」という意見を参考に、「まったり」=「京都」という発想で、紅葉の季節にはまだ早い、9月の終わり一足先に京都に旅行に行ってきました。

京都に着くなり、「まったり」とはほど遠い人の多さに驚いてしまいました。バス乗り場は行列、地下鉄やJRも満員状態……。駅員さんに話を聞くと、ちょうど旅行に行った日が秋分の日ということもあり、お墓参りでお寺や道が込み合っているとのことでした。

ニコニコ伸び伸び 中澤チルドレン

「ないてーい(内定)！」。四国管財の中澤清一社長のご自宅での11年前の新年会の席。当時ブルーチップに勤めていた松野さんは部長時代の中澤社長にこう声をかけられた。いきなり何を気に入って別の会社の人間をくどかれたのか、結局その後も中澤社長に聞けないままに今日に至っている。が、「四国管財に入るのに松野は2年半かかった」と、当時社長に何度も言われたのが松野さんはとても嬉しかったようだ。そのためかどうか、松野さんはなんだか「中澤チルドレン」みたい。

人に関われることが好きで、「スタッフがボクに怒られないようボクの顔を窺うようでは意味がない。伸び伸びやってもらえるよう雰囲気柔らかくしたいし、でも言うべきはきちんと伝えるよう行き違いを起こさない工夫をしています」と、几帳面に綴られた大学ノートには『連絡事項ノート』と表題がある。毎日の打ち合わせ会で話したことがそのまま記録されている。「いいと気づいたことは、すぐに取りあえず実行してみる。これが会社の方針なんですよ！」。まるで中澤社長が乗り移ったように、流暢に現状の説明……。

そしてもう一点、松野さんの大きな関心は四国管財の社是のひとつ「明確な夢を持ち、諦めさえしなければ夢は必ず実現できる」といわれる「夢」の話。7歳になる一人娘の紗也ちゃんとニューカレドニアで海に潜ることを真っ先に挙げ、かわいくて仕方ない風に今度は娘孝行の話。休みの楽しみは紗也ちゃんと出かけることだし、喜びは紗也ちゃんのスイミングスクールの級が順調に上がっていること。娘とはゲーム友達でお風呂では必ずパパが「赤ちゃん洗髪ほんのつ」をするという子煩悩ぶり。

仕事での夢は「四国管財に任せたら間違いないといつでも言っていただけ

よう足もとを常に固めることで、そのためには皆の人間性を高めることが必須」と、こういう優等生バージョンで話は盛り上がる。



▲月曜から土曜まで毎日11:50からの10分間は「人間性を高め心を磨く」ために、四国管財特製の「ドリームカード」を使った勉強会と情報交換会が開かれ、松野ディレクターも50人ほどのスタッフの一員として参加する

たい」と、まず大阪の辻調理師学校で1年学び、大阪の新阪急ホテルへ就職。5年間働いて腕前は上がり役割も増えては来たが、いつまでも故郷を離れてはおれず高知へ帰ることに。大阪の豊中市に生まれ、親の転勤で小学3年まで10回近く転校転園を繰り返し、以降は母上の実家のある高知に家族と移り住んでいた。

高知での就職先を決めず取りあえず退職し、その後無事ブルーチップの営業職に就いて4年近く過ぎた頃、当時つき合っていた今のヨメさんの勤め先の新年会についていって冒頭の「ない



ボクの趣味は娘孝行！
大好きな紗也ちゃんと



てーい(内定)！」となる。入社後、2年弱で近森会の担当になり「マニュアルを作って立ち上げに参画するだけ」のはずがすでに7年を経過した。

職場経験でも人生経験でも松野さんより長い大先輩の女性に囲まれて、ニコニコ伸び伸びできるのは、中澤チルドレンの面目躍如、「きっとできるはず」とプラス発想でしか物事を始めない！からではないだろうか。

薬用酒アラカルト 16 『シソ酒』



今回はみずみずしい香漂う、アオジソをたっぷり使ったお酒に挑戦してみました。

<材料>(密閉容器 1L分)

アオジソ 100g

ホワイトリカー 800ml

<作り方>

①アオジソは手早く水洗いし、水をふきとる。

②そのまま容器に入れ、ホワイトリカーを注ぐ。

③1カ月ぐらいで飲めるようになるが、熟成期間が長いほど上質なりキュールになる。

アオジソ酒にはビタミンA、カロ

文と画：
薬局 嶋崎 ユリカ

チン、カルシウム、パルミチン酸などが含まれ、コレステロールの除去や神経症、強壮、鎮静などさまざまな効果があるといわれています。

漬け込んでから約1カ月後の、ひろっぱ編集委員による試飲会では、「さわやかな香」、「ほんのりと甘味があり、しつこさがない」、などの感想をいただきました。ロックで飲むとさっぱりした感じ、トニックや炭酸水で割って、お好みでガムシロップを加えるとまるやかな感じになります。レモン汁を加えて飲んだり、またお料理の隠し味としても使えます。

黄昏の空が群青色に変わる頃、さらに新しいシソの葉を浮かべて、香りを楽しみながらいかがですか？

シリーズ●クリニック探訪12

浜田循環器内科

(高知市本町五丁目 2-16) 裁判所前

tel.088-823-8170 fax.875-4635



▲正面玄関に入ってゆったりと 20 メートルの廊下に沿って検査室、診察室が続く。優しい採光にホッとくつろげる待ち合い室で、スタッフ一同の記念撮影

院長・濱田富雄。S39年4月20日、高知市生まれ。趣味はアウトドア



高知地方裁判所



浜田循環器内科

高知市民図書館

グランド前

県庁前

診療科目 ● 内科、循環器科、呼吸器科、胃腸科
 診療時間 ● 午前 9:00~12:30
 午後 14:00~17:30
 休診日 ● 日曜、祝日



理事長
濱田彰彦



「浜田循環器内科」としてリニューアルオープンして3年め、父との連携プレーもスムーズになりました。スタッフ一同、明るい雰囲気と親切で丁寧な応対を心がけながら、心臓病や動脈硬化の原因となる高血圧、高コレステロール血症、糖尿病などの生活習慣病を中心に診療しております。

わたしのこの一枚

私の独り言 近森リハビリテーション病院作業療法士 中田 志乃

昨年は、院内旅行を利用して念願の海外旅行へ行くことが出来ました。初めての事で、保険に入り忘れていたり、ホテルのトイレが流れなくなったりと、ハプニングもいくつかありアタフタしていました。しかし今となっては、先輩方とはしゃいだり、チョット素敵な金髪少年と仲良くなったりと、とても楽しい思い出ばかりです。



中田さん



さあ、今年はいったいどんなお楽しみが待っているのかしら？ ドキドキしながら次の旅を心待ちにしています。

なかた しの

図書室便り

(10月受入分)

- ・心臓外科 Knack&Pitfalls 大動脈外科の要点と盲点 / 高本真一
- ・セーフティテクニック 心臓手術アトラス (原著第3版) / 古瀬 彰
- ・人工呼吸ケアのポイント 400 / 卯野木 健
- ・病院が気づいていない患者さんの悩みこんなどころに 一愛される病院を目指して / 田中敏之
- ・本・こども・NPO 一高知こども図書館5周年記念 / 大原寿美 (他著)

《別冊・増刊号》

- ・別冊 整形外科 No.48. 骨壊死 一最新の診断と治療 / 中村孝志 (編集)
- ・月刊 Medical Technology 別冊 超音波エキスパート 4 乳房超音波実践マニュアル / 佐久間 浩 (他編集)
- ・生涯教育シリーズ 68 実践皮膚病変のみかた / 西岡 清 (他著)

《ビデオ・DVD》

- ・VIDEO JOURNAL of JUA / 日本泌尿器科学会 (企画・監修)

編集室通信

親ばかと言われるだろう、来年小学生になる長男がここ最近お勉強にはまっている(^_^)。算数や読書にパソコンと楽しくてしょうがない様である。親としてはうれしい限りではあるが、親はうかうかしてられない、近い将来ぜったい簡単に追い抜かれるだろう。ただ最近はお勉強しても頭に入るまで時間が……、頭が固くなったのかな？ がんばれ自分！ (ぼのだ)

10月の診療数	近森会 外来患者数	19,477 人	企画情報室
	近森会新入院患者数	852 人	
	近森会 退院患者数	854 人	
	地域医療支援病院紹介率	86.18 %	
	近森病院平均在院日数	15.17 日	
	近森会 平均在院日数	23.25 日	
	近森病院救急車搬入件数	415 件	
	うち入院件数	217 件	
	手術件数 (手術室での)	233 件	
	うち全身麻酔件数	114 件	